

介護保険における福祉用具利用期間の当初見込みと実態の比較に関する調査 報告書

1. 調査概要

(1) 実施主体

一般社団法人 日本福祉用具供給協会（自主事業）

(2) 調査目的

介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目のあり方検討会では、一部の貸与種目において福祉用具貸与・特定福祉用具販売の選択を可能とするか検討されている。この中で、利用期間が長期になると考えられる場合には販売を選択できるようにしてはどうかという意見がある一方で、利用期間を事前に判断することは困難等の意見がある。

本事業では、利用者（又は家族）において福祉用具が不要となり返却する時点で、返却の理由とその福祉用具の利用期間が、利用者が思っていた当初の利用見込み期間と比べて相違がなかったかを調査目的とした。

(3) 調査依頼先

当協会の理事及び監事の企業が運営する全ての福祉用具貸与事業所（361 事業所）

(4) 調査対象

以下の条件を満たす福祉用具を回収する事例全件（但し、故障や消耗により同じ製品へ交換する事例を除く）

- ・対象期間：2023年4月10日（月）～23日（日） ※回収日基準
- ・対象種目：歩行補助つえ、歩行器、手すり、スロープ（介護保険対象）

(5) 調査項目

実施要領（別添）内の登録シート（別紙1、23ページ）の通り

(6) 調査・回答方法

福祉用具専門相談員が利用者（又は家族）へ質問し回答を聞き取り、その結果と基本情報をオンライン回答式調査票へ入力、送信した

(7) 回答数

①利用者数

男	女	総計
1,426 (37.3%)	2,398 (62.7%)	3,824 (100.0%)

②延べ回収数量

歩行補助杖	歩行器	手すり	スロープ	総計
426	1,625	3,907	726	6,684

2. 利用者の基本情報に関する集計結果

(1) 回収時の年齢

性別・年齢区分別の構成比は、性別で男性 37.3%・女性 62.7%、年代では 85～90 歳未満が 27.0%と最多であった。

【表 1：性別・年齢区分別利用者数】

	男	女	総計	構成比
65歳未満	55	51	106	(2.8%)
65～70歳未満	58	56	114	(3.0%)
70～75歳未満	129	145	274	(7.2%)
75～80歳未満	213	270	483	(12.6%)
80～85歳未満	279	436	715	(18.7%)
85～90歳未満	386	648	1,034	(27.0%)
90～95歳未満	228	557	785	(20.5%)
95～100歳未満	73	201	274	(7.2%)
100歳以上	5	34	39	(1.0%)
総計	1,426	2,398	3,824	(100.0%)
構成比	(37.3%)	(62.7%)	(100.0%)	

(2) 回収時の要介護度

要介護度別では、要介護 2 が 25.0%で最も多く、要介護 5 が 6.2%と最も少なかった。

【表 2：性別・要介護度別利用者数】

	男	女	総計	構成比
要支援 1	76	183	259	(6.8%)
要支援 2	134	332	466	(12.2%)
要介護 1	265	495	760	(19.9%)
要介護 2	374	581	955	(25.0%)
要介護 3	274	413	687	(18.0%)
要介護 4	193	268	461	(12.1%)
要介護 5	110	126	236	(6.2%)
総計	1,426	2,398	3,824	

また、回収した用具種目別で平均介護度を見るとスロープが 2.90 で最も高く、次いで手すりが 2.14、歩行器が 1.75、歩行補助杖が 1.72 と続いた。

種目別の介護度で見ると、スロープは要介護 3 が最頻であったが、それ以外の 3 種目は要介護 2 が最頻であった。

【表 3：回収用具種目別・要介護度別回収数量】

	歩行補助杖		歩行器		手すり		スロープ	
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比
要支援 1	38	(8.9%)	124	(7.6%)	166	(4.2%)	6	(0.8%)
要支援 2	66	(15.5%)	237	(14.6%)	334	(8.5%)	43	(5.9%)
要介護 1	84	(19.7%)	359	(22.1%)	794	(20.3%)	80	(11.0%)
要介護 2	109	(25.6%)	386	(23.8%)	1,055	(27.0%)	158	(21.8%)
要介護 3	61	(14.3%)	298	(18.3%)	845	(21.6%)	170	(23.4%)
要介護 4	54	(12.7%)	157	(9.7%)	493	(12.6%)	141	(19.4%)
要介護 5	14	(3.3%)	64	(3.9%)	220	(5.6%)	128	(17.6%)
総計	426	(100.0%)	1,625	(100.0%)	3,907	(100.0%)	726	(100.0%)
平均介護度	1.72		1.75		2.14		2.90	

(3) 他サービス利用状況

他サービス利用状況を利用者数で見ると、「なし」（福祉用具貸与のみ）の割合は25.5%であった。サービス別では通所介護が36.3%と最も多く、次いで訪問介護27.3%、訪問看護18.4%と続いた。

【表7：他サービス利用状況別利用者数（「なし」以外は複数回答）】

	利用者数	割合
訪問介護	1,043	(27.3%)
訪問入浴介護	97	(2.5%)
訪問看護	703	(18.4%)
訪問リハビリ	379	(9.9%)
通所介護	1,389	(36.3%)
通所リハビリ	445	(11.6%)
短期入所生活介護、療養介護	309	(8.1%)
なし	976	(25.5%)
総計	3,824	(100.0%)

また、貸与種目別に他サービス利用状況を見ると、「なし」（福祉用具貸与のみ）の割合は歩行補助杖で29.6%、歩行器で25.6%となっている。

【表8：他サービス利用状況別・種目別回収数量（「なし」以外は複数回答）】

	回収数量							
	歩行補助杖		歩行器		手すり		スロープ	
訪問介護	113	(26.5%)	456	(28.1%)	1,276	(32.7%)	202	(27.8%)
訪問入浴介護	7	(1.6%)	28	(1.7%)	110	(2.8%)	47	(6.5%)
訪問看護	66	(15.5%)	265	(16.3%)	847	(21.7%)	203	(28.0%)
訪問リハビリ	39	(9.2%)	172	(10.6%)	396	(10.1%)	98	(13.5%)
通所介護	146	(34.3%)	582	(35.8%)	1,483	(38.0%)	303	(41.7%)
通所リハビリ	54	(12.7%)	207	(12.7%)	446	(11.4%)	67	(9.2%)
短期入所生活介護 療養介護	25	(5.9%)	94	(5.8%)	395	(10.1%)	96	(13.2%)
なし	126	(29.6%)	416	(25.6%)	851	(21.8%)	105	(14.5%)
総計	426	(100.0%)	1,625	(100.0%)	3,907	(100.0%)	726	(100.0%)

(4) 回収理由区分

回収理由区分別では表9の通り、利用しなくなったことによる回収が80.0%で最も高く、次いで同一種目の別機種へ交換するための回収が13.3%であった。

【表9：回収理由区分別利用者数】

	利用者数	構成比
1. 利用しなくなったことによる回収	3,060	(80.0%)
2. 別の移動用種目へ交換するための回収 (例：杖から歩行器)	255	(6.7%)
3. 同一種目の別機種へ交換するための回収 (例：歩行器Aから歩行器B)	509	(13.3%)
総計	3,824	(100.0%)

また、種目別に見ると表10の通り、「3. 同一種目の別機種へ交換するための回収」が歩行器で22.8%と最も高く、手すりやスロープと比べて極めて高い構成比であった。

【表 10：回収理由区分別・種目別回収数量】

回収数量		歩行補助杖	歩行器	手すり	スロープ
	1. 利用しなくなったことによる回収	351 (82.4%)	1,161 (71.4%)	3,615 (92.5%)	701 (96.6%)
	2. 別の移動用種目へ交換するための回収 (例：杖から歩行器)	33 (7.7%)	94 (5.8%)	165 (4.2%)	8 (1.1%)
	3. 同一種目の別機種へ交換するための回収 (例：歩行器Aから歩行器B)	42 (9.9%)	370 (22.8%)	127 (3.3%)	17 (2.3%)
総計	426 (100.0%)	1,625 (100.0%)	3,907 (100.0%)	726 (100.0%)	

(5) 回収した理由

回収した理由としては、身体状況の悪化が 23.5%で最も多く、次いで入院（医療機関）が 17.0%、身体状況の改善が 17.0%と続いた。このほか、回収した理由は多岐に亘っていた。

【表 11：回収した理由別利用者数（複数回答）】

	利用者数	割合
身体状況の悪化	900	(23.5%)
入院（医療機関）	651	(17.0%)
身体状況の改善	650	(17.0%)
入所（老健・特養等）	444	(11.6%)
死亡	381	(10.0%)
利用者が使用しなくなる	193	(5.0%)
入居（サ高住・有老）	186	(4.9%)
住改・リフォームへの切り替え	169	(4.4%)
転居（親族宅等）	71	(1.9%)
購入品への切り替え	51	(1.3%)
経済的理由	21	(0.5%)
他社への入れ替え	19	(0.5%)
介助者介護への切り替え	14	(0.4%)
自立判定による保険適用外	1	(0.0%)
その他	316	(8.3%)
総計	3,824	(100.0%)

表 11 の「その他」にある自由記述を見ると表 12 の通りであり、「より適した用具への交換」、「生活環境の変化」、「特殊寝台導入に伴う手すり回収」、「利用頻度の減少」、「利用者の用具に対する好み」等の記述があった。

【表 12：表 11「その他」のカテゴリ分け】

	利用者数
より適した用具への交換	117
既存回答区分の補足記述	55
生活環境の変化	42
特殊寝台導入に伴う手すり回収	22
利用頻度の減少	17
利用者の用具に対する好み	11
別商品を購入したため	7
単位数の関係	6
長期利用に伴う交換	5
他職種の助言	2
その他	32
総計	316

回収した理由の要介護度別では、「入院（医療機関）」、「入所（老健・特養等）」、「身体状況の悪化」、「死亡」については要介護度が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる一方で、「身体状況の改善」、「住改・リフォームへの切り替え」、「利用者が使用したがない」は、要介護度が高くなるにつれて割合が低くなる傾向が見られる。これは、福祉用具貸与が利用者の状態像や福祉用具の回収理由に柔軟に対応できているものと考えられる。

【表 12 の 2 : 回収した理由別・要介護度利用者数（複数回答）】

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	総計
身体状況の悪化	48 (18.5%)	88 (18.9%)	149 (19.6%)	233 (24.4%)	183 (26.6%)	124 (26.9%)	75 (31.8%)	900 (23.5%)
入院（医療機関）	27 (10.4%)	65 (13.9%)	124 (16.3%)	181 (19.0%)	130 (18.9%)	78 (16.9%)	46 (19.5%)	651 (17.0%)
身体状況の改善	63 (24.3%)	112 (24.0%)	151 (19.9%)	155 (16.2%)	88 (12.8%)	55 (11.9%)	26 (11.0%)	650 (17.0%)
入所（老健・特養等）	6 (2.3%)	19 (4.1%)	90 (11.8%)	94 (9.8%)	133 (19.4%)	75 (16.3%)	27 (11.4%)	444 (11.6%)
死亡	22 (8.5%)	28 (6.0%)	68 (8.9%)	107 (11.2%)	60 (8.7%)	58 (12.6%)	38 (16.1%)	381 (10.0%)
利用者が使用したがない	22 (8.5%)	36 (7.7%)	46 (6.1%)	43 (4.5%)	31 (4.5%)	11 (2.4%)	4 (1.7%)	193 (5.0%)
入居（サ高住・有老）	4 (1.5%)	17 (3.6%)	45 (5.9%)	55 (5.8%)	40 (5.8%)	19 (4.1%)	6 (2.5%)	186 (4.9%)
住改・リフォームへの切り替え	18 (6.9%)	29 (6.2%)	38 (5.0%)	40 (4.2%)	18 (2.6%)	21 (4.6%)	5 (2.1%)	169 (4.4%)
転居（親族宅等）	6 (2.3%)	16 (3.4%)	19 (2.5%)	13 (1.4%)	8 (1.2%)	7 (1.5%)	2 (0.8%)	71 (1.9%)
購入品への切り替え	7 (2.7%)	11 (2.4%)	11 (1.4%)	7 (0.7%)	6 (0.9%)	6 (1.3%)	3 (1.3%)	51 (1.3%)
経済的理由	2 (0.8%)	6 (1.3%)	3 (0.4%)	3 (0.3%)	3 (0.4%)	3 (0.7%)	1 (0.4%)	21 (0.5%)
他社への入れ替え	1 (0.4%)	3 (0.6%)	4 (0.5%)	9 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)	19 (0.5%)
介助者介護への切り替え	1 (0.4%)	2 (0.4%)	3 (0.4%)	2 (0.2%)	2 (0.3%)	2 (0.4%)	2 (0.8%)	14 (0.4%)
自立判定による保険適用外	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
その他	44 (17.0%)	64 (13.7%)	64 (8.4%)	69 (7.2%)	38 (5.5%)	25 (5.4%)	12 (5.1%)	316 (8.3%)
総計	259 (100.0%)	466 (100.0%)	760 (100.0%)	955 (100.0%)	687 (100.0%)	461 (100.0%)	236 (100.0%)	3,824 (100.0%)

（次頁に続く）

また、回収した理由を種目別に見ると表 13 の通りであり、歩行補助杖と歩行器で最大の理由は「身体状況の悪化」、手すりとスロープでは「入院（医療機関）」であった。

【表 13：他サービス利用状況別・種目別回収数量（「なし」以外は複数回答）】

	歩行補助杖	歩行器	手すり	スロープ
身体状況の悪化	116 (27.2%)	423 (26.0%)	652 (16.7%)	67 (9.2%)
入院（医療機関）	60 (14.1%)	286 (17.6%)	990 (25.3%)	188 (25.9%)
身体状況の改善	80 (18.8%)	329 (20.2%)	309 (7.9%)	84 (11.6%)
入所（老健・特養等）	41 (9.6%)	171 (10.5%)	733 (18.8%)	147 (20.2%)
死亡	41 (9.6%)	140 (8.6%)	500 (12.8%)	120 (16.5%)
利用者が使用したがない	28 (6.6%)	108 (6.6%)	71 (1.8%)	14 (1.9%)
入居（サ高住・有老）	19 (4.5%)	64 (3.9%)	310 (7.9%)	48 (6.6%)
住改・リフォームへの切り替え	2 (0.5%)	2 (0.1%)	274 (7.0%)	25 (3.4%)
転居（親族宅等）	5 (1.2%)	22 (1.4%)	103 (2.6%)	21 (2.9%)
購入品への切り替え	16 (3.8%)	20 (1.2%)	16 (0.4%)	2 (0.3%)
経済的理由	2 (0.5%)	6 (0.4%)	19 (0.5%)	3 (0.4%)
他社への入れ替え	6 (1.4%)	7 (0.4%)	17 (0.4%)	6 (0.8%)
介助者介護への切り替え	1 (0.2%)	5 (0.3%)	8 (0.2%)	3 (0.4%)
自立判定による保険適用外	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)
その他	29 (6.8%)	158 (9.7%)	167 (4.3%)	41 (5.6%)
総計	426 (100.0%)	1,625 (100.0%)	3,907 (100.0%)	726 (100.0%)

(6) 福祉用具の利用期間

回収した福祉用具の利用期間を見ると表 14 の通り、全ての種目で半年未満が最多であり、割合としては、歩行補助杖が 41.8%、歩行器が 47.4%、手すりが 38.8%、スロープが 48.6% と 4 割程度であった。

また、1 年未満で見た場合では、歩行補助杖が 58.9%、歩行器が 64.9%、手すりが 56.6%、スロープが 63.3% と 6 割程度であった。

平均月数としては、歩行補助杖が 15.7 か月、歩行器が 14.6 か月、手すりが 16.3 か月、スロープが 11.3 か月であった。

【表 14：回収した福祉用具の利用期間別・種目別回収数量】

	回収数量							
	歩行補助杖		歩行器		手すり		スロープ	
半年未満	178	(41.8%)	771	(47.4%)	1,516	(38.8%)	353	(48.6%)
半年～1年未満	73	(17.1%)	284	(17.5%)	697	(17.8%)	107	(14.7%)
1～3年未満	122	(28.6%)	374	(23.0%)	1,018	(26.1%)	169	(23.3%)
3～5年未満	33	(7.7%)	131	(8.1%)	421	(10.8%)	47	(6.5%)
5年以上	20	(4.7%)	65	(4.0%)	255	(6.5%)	50	(6.9%)
総計	426	(100.0%)	1,625	(100.0%)	3,907	(100.0%)	726	(100.0%)
平均月数	15.7		14.6		16.3		11.3	

(7) 貸与開始時と終了時の介護度

介護度が維持されている状態での用具回収は 64.0～71.7%であった。一方で、4.8～5.9%で介護度が改善されていることとなっている。

【表 15：貸与開始時と終了時の介護度（歩行補助杖）】

		回収時							総計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
開始時	要支援 1	34	4	8	10	4	2	0	62
	要支援 2	3	56	7	11	4	0	1	82
	要介護 1	0	2	64	9	6	8	5	94
	要介護 2	0	3	5	73	14	6	0	101
	要介護 3	0	1	0	3	30	6	0	40
	要介護 4	0	0	0	3	3	32	3	41
	要介護 5	1	0	0	0	0	0	5	6
総計	38	66	84	109	61	54	14	426	
		軽度化	24 (5.6%)	維持	294 (69.0%)	重度化	108 (25.4%)		

【表 16：貸与開始時と終了時の介護度（歩行器）】

		回収時							総計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
開始時	要支援 1	114	18	23	12	21	7	0	195
	要支援 2	2	201	46	39	16	11	8	323
	要介護 1	6	5	265	46	29	14	7	372
	要介護 2	1	9	12	275	44	18	3	362
	要介護 3	0	4	11	9	178	11	4	217
	要介護 4	0	0	1	5	9	95	5	115
	要介護 5	1	0	1	0	1	1	37	41
総計	124	237	359	386	298	157	64	1,625	
		軽度化	78 (4.8%)	維持	1,165 (71.7%)	重度化	382 (23.5%)		

【表 17：貸与開始時と終了時の介護度（手すり）】

		回収時							総計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
開始時	要支援 1	138	21	34	58	53	28	8	340
	要支援 2	8	281	115	96	61	40	8	609
	要介護 1	10	14	575	153	97	61	32	942
	要介護 2	7	15	35	681	144	75	17	974
	要介護 3	2	2	16	45	460	32	20	577
	要介護 4	0	1	15	18	23	254	24	335
	要介護 5	1	0	4	4	7	3	111	130
総計	166	334	794	1,055	845	493	220	3,907	
		軽度化	230 (5.9%)	維持	2,500 (64.0%)	重度化	1,177 (30.1%)		

【表 18：貸与開始時と終了時の介護度（スロープ）】

		回収時							総計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
開始時	要支援 1	2	1	0	25	1	6	0	35
	要支援 2	3	38	9	15	10	2	0	77
	要介護 1	0	0	59	19	18	11	10	117
	要介護 2	0	2	11	89	15	8	13	138
	要介護 3	0	0	1	9	119	13	16	158
	要介護 4	0	2	0	0	1	101	14	118
	要介護 5	1	0	0	1	6	0	75	83
	総計	6	43	80	158	170	141	128	726
		軽度化 (5.1%)	37	維持 (66.5%)	483	重度化 (28.4%)	206		

3. 利用者に対する質問に関する集計結果

(1) 問 1 「この福祉用具を返却することになりましたが、利用を始めるときを思い返して、この福祉用具の利用期間は想定通りでしたか？」（単一回答）

- ① 「想定より短かった」が 41.3%で最も多く、次いで「わからない」が 22.9%、「想定に近かった」が 22.1%、「想定より長かった」が 13.7%と続いた。

【表 19：問 1 回答集計（利用者数ベース）】

	利用者数	構成比
想定に近かった	846	(22.1%)
想定より短かった	1,579	(41.3%)
想定より長かった	525	(13.7%)
わからない	874	(22.9%)
総計	3,824	(100.0%)

- ② 用具種目別（回収数量ベース）では、表 20 の通りであり、用具種目による傾向の違いは小さいものの、歩行器については他種目より「想定に近かった」がやや低く、「想定より短かった」がやや高く、「わからない」がやや高かった。

【表 20：問 1 回答・種目別回収数量】

		想定に 近かった	想定より 短かった	想定より 長かった	わからない	総計
回収 数量	歩行補助杖	100 (23.5%)	177 (41.5%)	58 (13.6%)	91 (21.4%)	426 (100.0%)
	歩行器	316 (19.4%)	688 (42.3%)	223 (13.7%)	398 (24.5%)	1,625 (100.0%)
	手すり	882 (22.6%)	1,631 (41.7%)	580 (14.8%)	814 (20.8%)	3,907 (100.0%)
	スロープ	171 (23.6%)	306 (42.1%)	88 (12.1%)	161 (22.2%)	726 (100.0%)
	総計	1,469 (22.0%)	2,802 (41.9%)	949 (14.2%)	1,464 (21.9%)	6,684 (100.0%)

- ③ 利用期間区別は表 21 の通りであり、半年未満では「想定より短かった」が 55.7%と最も高く、次いで「想定に近かった」が 22.4%であった。

【表 21：問 1 回答・貸与期間別利用者数】

	想定に 近かった	想定より 短かった	想定より 長かった	わからない	総計	
利用者数	半年未満	410 (22.4%)	1,021 (55.7%)	82 (4.5%)	319 (17.4%)	1,832 (100.0%)
	半年～1年未満	146 (22.1%)	288 (43.6%)	78 (11.8%)	149 (22.5%)	661 (100.0%)
	1～3年未満	196 (22.6%)	225 (25.9%)	178 (20.5%)	270 (31.1%)	869 (100.0%)
	3～5年未満	64 (22.2%)	38 (13.2%)	103 (35.8%)	83 (28.8%)	288 (100.0%)
	5年以上	30 (17.2%)	7 (4.0%)	84 (48.3%)	53 (30.5%)	174 (100.0%)
	総計	846 (22.1%)	1,579 (41.3%)	525 (13.7%)	874 (22.9%)	3,824 (100.0%)

- ④ 回収時の要介護度別（利用者数ベース）では、「想定に近かった」と回答した割合に傾向は見られなかったが、「想定より短かった」と回答した割合は要支援 1 が 47.9%と最も高く、要介護 4 が 35.1%と最も低かった。

また、「想定より長かった」と回答した割合は要介護 4 が 16.1%と最も高く、要支援 1 が 8.5%と最も低かった。

【表 22：問 1 回答・回収時要介護度別利用者数】

	想定に 近かった	想定より 短かった	想定より 長かった	わからない	総計	
利用者数	要支援 1	53 (20.5%)	124 (47.9%)	22 (8.5%)	60 (23.2%)	259 (100.0%)
	要支援 2	110 (23.6%)	195 (41.8%)	54 (11.6%)	107 (23.0%)	466 (100.0%)
	要介護 1	157 (20.7%)	316 (41.6%)	90 (11.8%)	197 (25.9%)	760 (100.0%)
	要介護 2	208 (21.8%)	399 (41.8%)	146 (15.3%)	202 (21.2%)	955 (100.0%)
	要介護 3	155 (22.6%)	281 (40.9%)	105 (15.3%)	146 (21.3%)	687 (100.0%)
	要介護 4	110 (23.9%)	162 (35.1%)	74 (16.1%)	115 (24.9%)	461 (100.0%)
	要介護 5	53 (22.5%)	102 (43.2%)	34 (14.4%)	47 (19.9%)	236 (100.0%)
	総計	846 (22.1%)	1,579 (41.3%)	525 (13.7%)	874 (22.9%)	3,824 (100.0%)

- ⑤ 回収理由区分別（利用者数ベース）では、「想定に近かった」との回答は「利用しなくなったことによる回収」が 23.0%と最も高かった。「想定よりも短かった」との回答は「別の移動用種目へ交換するための回収」が 45.1%と最も高かった。

【表 23：問 1 回答・回収理由区分別利用者数】

	想定に 近かった	想定より 短かった	想定より 長かった	わからない	総計
利用者数					
1. 利用しなくなったことによる回収	703 (23.0%)	1,274 (41.6%)	428 (14.0%)	655 (21.4%)	3,060 (100.0%)
2. 別の移動用種目へ交換するための回収 (例：杖から歩行器)	45 (17.6%)	115 (45.1%)	32 (12.5%)	63 (24.7%)	255 (100.0%)
3. 同一種目の別機種へ交換するための回収 (例：歩行器Aから歩行器B)	98 (19.3%)	190 (37.3%)	65 (12.8%)	156 (30.6%)	509 (100.0%)
総計	846 (22.1%)	1,579 (41.3%)	525 (13.7%)	874 (22.9%)	3,824 (100.0%)

- ⑥ 回収した理由別（利用者数ベース、複数回答）では表 24 の通りであり、「想定より短かった」と回答し、回収した理由が「身体状況の悪化」の割合は 22.6%、「入院（医療機関）」の割合は 17.3%であった。

【表 24：問 1 回答・回収した理由別回答数（複数回答）】

	想定に 近かった	想定より 短かった	想定より 長かった	わからない	総計
回答数					
身体状況の悪化	163 (18.3%)	386 (22.6%)	140 (25.3%)	211 (23.0%)	900 (22.1%)
入院（医療機関）	127 (14.3%)	295 (17.3%)	80 (14.4%)	149 (16.2%)	651 (16.0%)
身体状況の改善	150 (16.9%)	300 (17.6%)	83 (15.0%)	117 (12.7%)	650 (16.0%)
入所（老健・特養等）	120 (13.5%)	136 (8.0%)	88 (15.9%)	100 (10.9%)	444 (10.9%)
死亡	84 (9.4%)	160 (9.4%)	57 (10.3%)	80 (8.7%)	381 (9.4%)
利用者が使用しつがらない	34 (3.8%)	103 (6.0%)	8 (1.4%)	48 (5.2%)	193 (4.7%)
入居（サ高住・有老）	42 (4.7%)	66 (3.9%)	32 (5.8%)	46 (5.0%)	186 (4.6%)
住改・リフォームへの切り替え	73 (8.2%)	58 (3.4%)	10 (1.8%)	28 (3.1%)	169 (4.2%)
転居（親族宅等）	17 (1.9%)	25 (1.5%)	15 (2.7%)	14 (1.5%)	71 (1.7%)
購入品への切り替え	7 (0.8%)	27 (1.6%)	6 (1.1%)	11 (1.2%)	51 (1.3%)
経済的理由	2 (0.2%)	10 (0.6%)	2 (0.4%)	7 (0.8%)	21 (0.5%)
他社への入れ替え	2 (0.2%)	8 (0.5%)	2 (0.4%)	7 (0.8%)	19 (0.5%)
介助者介護への切り替え	1 (0.1%)	6 (0.4%)	2 (0.4%)	5 (0.5%)	14 (0.3%)
自立判定による保険適用外	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
その他	67 (7.5%)	125 (7.3%)	29 (5.2%)	95 (10.3%)	316 (7.8%)
総計	889 (100.0%)	1,706 (100.0%)	554 (100.0%)	918 (100.0%)	4,067 (100.0%)

- ⑦ 他サービス利用状況別（利用者数ベース）では、表 25 の通りであり、大きな傾向の違いは見られなかった。

【表 25：問 1 回答・他サービス利用状況別利用者数（複数回答）】

		想定に 近かった	想定より 短かった	想定より 長かった	わからない	総計
利用者 数	福祉用具貸与のみ	218 (22.3%)	438 (44.9%)	100 (10.2%)	220 (22.5%)	976 (100.0%)
	他サービス併用	628 (22.1%)	1,141 (40.1%)	425 (14.9%)	654 (23.0%)	2,848 (100.0%)
	総計	846 (22.1%)	1,579 (41.3%)	525 (13.7%)	874 (22.9%)	3,824 (100.0%)

- (2) 問 2 「返却するこの福祉用具について、レンタルで良かったと思う点がありますか？」（複数回答可）

- ① 「不要になったら返却できること」が 80.9%で最も高く、次いで「安く借りられること」が 40.2%、「不具合発生時に対応してもらえること」が 32.5%と続いた。

【表 26：問 2 回答集計（利用者数ベース、複数回答）】

	利用者数	割合
不要になったら返却できること	3,094	(80.9%)
安く借りられること	1,539	(40.2%)
不具合発生時に対応してもらえること	1,242	(32.5%)
困った時に相談しやすいこと	1,194	(31.2%)
定期的にメンテナンスを受けられること	1,192	(31.2%)
特にない	108	(2.8%)
総計	3,824	(100.0%)

- ② 用具種目別で見ると表 27 の通りであり、全ての種目で「不要になったら返却できること」が約 8 割となっている。

【表 27：問 2 回答・種目別回収数量（複数回答）】

		不要にな るこた ら	安 く 借 り ら れ る こ と	し 不 具 合 発 生 時 に 対 応	し 困 や つ す い 時 に 相 談	を 定 期 的 に メ ン テ ナ ン ス	特 に な い	総 計
回収 数 量	歩行補助杖	334 (78.4%)	174 (40.8%)	139 (32.6%)	131 (30.8%)	146 (34.3%)	11 (2.6%)	426 (100.0%)
	歩行器	1,267 (78.0%)	640 (39.4%)	617 (38.0%)	542 (33.4%)	566 (34.8%)	34 (2.1%)	1,625 (100.0%)
	手すり	3,253 (83.3%)	1,598 (40.9%)	1,264 (32.4%)	1,313 (33.6%)	1,266 (32.4%)	114 (2.9%)	3,907 (100.0%)
	スロープ	584 (80.4%)	332 (45.7%)	218 (30.0%)	250 (34.4%)	218 (30.0%)	23 (3.2%)	726 (100.0%)
	総計	5,438 (81.4%)	2,744 (41.1%)	2,238 (33.5%)	2,236 (33.5%)	2,196 (32.9%)	182 (2.7%)	6,684 (100.0%)

- ③ 利用期間区分別では表 28 の通りであり、「定期的にメンテナンスを受けられること」と「不具合発生時に対応してもらえること」では、貸与期間が長期になるほど割合が高くなる傾向が見られた。

【表 28：問 2 回答・貸与期間別利用者数（複数回答）】

		返不 却要 でに きな るつ こと ら	安 く 借 り ら れ る こ と	し不 ても 具合 も発 ら生 え時 るに こと 対 応	し困 やつ た時 にこ と相 談	を定 期的 にメ ンテ ナ ン ス	特 に な い	総 計
利用 者 数	半年未満	1,534 (83.7%)	705 (38.5%)	526 (28.7%)	564 (30.8%)	458 (25.0%)	48 (2.6%)	1,832 (100.0%)
	半年～1年未満	523 (79.1%)	287 (43.4%)	232 (35.1%)	235 (35.6%)	231 (34.9%)	12 (1.8%)	661 (100.0%)
	1～3年未満	676 (77.8%)	358 (41.2%)	311 (35.8%)	260 (29.9%)	304 (35.0%)	30 (3.5%)	869 (100.0%)
	3～5年未満	223 (77.4%)	120 (41.7%)	100 (34.7%)	85 (29.5%)	124 (43.1%)	9 (3.1%)	288 (100.0%)
	5年以上	138 (79.3%)	69 (39.7%)	73 (42.0%)	50 (28.7%)	75 (43.1%)	9 (5.2%)	174 (100.0%)
	総計	3,094 (80.9%)	1,539 (40.2%)	1,242 (32.5%)	1,194 (31.2%)	1,192 (31.2%)	108 (2.8%)	3,824 (100.0%)

- ④ 問 1 で「想定に近かった」と回答し、貸与期間が 1 年未満だった利用者 556 人と 1 年以上だった利用者 290 人（表 21）について、問 2 の回答を比較すると表 28 の 2 の通りであり、1 年未満と 1 年以上で顕著な違いが見られないことから、貸与期間が短い場合であっても貸与の利点が理解されているものと考えられる。

【表 28 の 2：問 2 回答・問 1 回答「想定に近かった」・貸与期間別利用者数（複数回答）】

		返不 却要 でに きな るつ こと ら	安 く 借 り ら れ る こ と	し不 ても 具合 も発 ら生 え時 るに こと 対 応	し困 やつ た時 にこ と相 談	を定 期的 にメ ンテ ナ ン ス	特 に な い	総 計
貸与期間	1年未満	465 (83.6%)	218 (39.2%)	159 (28.6%)	171 (30.8%)	132 (23.7%)	8 (1.4%)	556 (100.0%)
	1年以上	243 (83.8%)	104 (35.9%)	105 (36.2%)	74 (25.5%)	101 (34.8%)	3 (1.0%)	290 (100.0%)
	総計	708 (83.7%)	322 (38.1%)	264 (31.2%)	245 (29.0%)	233 (27.5%)	11 (1.3%)	846 (100.0%)

- ⑤ 回収時の要介護度別（利用者数ベース）では、表 29 の通りであり、いずれの回答選択肢についても要介護度が高くなるにつれて回答割合がやや高くなる傾向が見られた。

【表 29：問 2 回答・回収時要介護度別利用者数】

		返不 却要 でに きる こと たら	安 く 借 り ら れ る こ と	し不 も具 も合 ら発 え生 る時 こと 対応	し困 やっ すた すい こと に相 談	を定 受期 け的 られ にに メン こと テナ ンス	特 に ない	総 計
利 用 者 数	要支援 1	205 (79.2%)	100 (38.6%)	78 (30.1%)	80 (30.9%)	77 (29.7%)	5 (1.9%)	259 (100.0%)
	要支援 2	357 (76.6%)	198 (42.5%)	145 (31.1%)	149 (32.0%)	141 (30.3%)	12 (2.6%)	466 (100.0%)
	要介護 1	587 (77.2%)	310 (40.8%)	236 (31.1%)	229 (30.1%)	244 (32.1%)	33 (4.3%)	760 (100.0%)
	要介護 2	787 (82.4%)	384 (40.2%)	298 (31.2%)	292 (30.6%)	277 (29.0%)	19 (2.0%)	955 (100.0%)
	要介護 3	576 (83.8%)	264 (38.4%)	251 (36.5%)	216 (31.4%)	222 (32.3%)	23 (3.3%)	687 (100.0%)
	要介護 4	391 (84.8%)	181 (39.3%)	150 (32.5%)	148 (32.1%)	157 (34.1%)	8 (1.7%)	461 (100.0%)
	要介護 5	191 (80.9%)	102 (43.2%)	84 (35.6%)	80 (33.9%)	74 (31.4%)	8 (3.4%)	236 (100.0%)
	総計	3,094 (80.9%)	1,539 (40.2%)	1,242 (32.5%)	1,194 (31.2%)	1,192 (31.2%)	108 (2.8%)	3,824 (100.0%)

- ⑥ 回収理由区分別（利用者数ベース）では表 30 の通りであり、「3. 同一種目の別機種へ交換するための回収」は、他の区分と比べて「不要になったら返却できること」と「安く借りられること」は割合が低く、他の回答選択肢では割合が高かった。

【表 30：問 2 回答・回収理由区分別利用者数】

		返不 却要 でに きる こと たら	安 く 借 り ら れ る こ と	し不 も具 も合 ら発 え生 る時 こと 対応	し困 やっ すた すい こと に相 談	を定 受期 け的 られ にに メン こと テナ ンス	特 に ない	総 計
利 用 者 数	1. 利用しなくなったことによる回収	2,502 (81.8%)	1,245 (40.7%)	937 (30.6%)	915 (29.9%)	918 (30.0%)	97 (3.2%)	3,060 (100.0%)
	2. 別の移動用種目へ交換するための回収 (例：杖から歩行器)	225 (88.2%)	100 (39.2%)	92 (36.1%)	79 (31.0%)	78 (30.6%)	3 (1.2%)	255 (100.0%)
	3. 同一種目の別機種へ交換するための回収 (例：歩行器Aから歩行器B)	367 (72.1%)	194 (38.1%)	213 (41.8%)	200 (39.3%)	196 (38.5%)	8 (1.6%)	509 (100.0%)
	総計	3,094 (80.9%)	1,539 (40.2%)	1,242 (32.5%)	1,194 (31.2%)	1,192 (31.2%)	108 (2.8%)	3,824 (100.0%)

⑦ 回収した理由別（利用者数ベース、複数回答）では表 31 の通りであり、割合のばらつきが一定程度あるものの、特段の傾向は見られなかった。

【表 31：問 2 回答・回収した理由別回答数（複数回答）】

	返不 却要 でに なっ たら	安 く 借 り ら れ る こ と	し不 も具 合合 発発 生生 時時 にに 対対 応	し困 やっ た す た い 時 に 相 談	を定 受期 け的 らに メン テナ ンス	特 に な い	総 計	
回 答 数	身体状況の悪化	760 (24.6%)	353 (22.9%)	348 (28.0%)	303 (25.4%)	315 (26.4%)	15 (13.9%)	900 (23.5%)
	入院（医療機関）	533 (17.2%)	304 (19.8%)	212 (17.1%)	178 (14.9%)	226 (19.0%)	18 (16.7%)	651 (17.0%)
	身体状況の改善	553 (17.9%)	258 (16.8%)	181 (14.6%)	199 (16.7%)	172 (14.4%)	10 (9.3%)	650 (17.0%)
	入所（老健・特養等）	352 (11.4%)	201 (13.1%)	159 (12.8%)	146 (12.2%)	166 (13.9%)	12 (11.1%)	444 (11.6%)
	死亡	284 (9.2%)	153 (9.9%)	127 (10.2%)	122 (10.2%)	111 (9.3%)	19 (17.6%)	381 (10.0%)
	利用者が使用したがない	160 (5.2%)	58 (3.8%)	54 (4.3%)	49 (4.1%)	49 (4.1%)	8 (7.4%)	193 (5.0%)
	入居（サ高住・有老）	135 (4.4%)	84 (5.5%)	56 (4.5%)	63 (5.3%)	51 (4.3%)	9 (8.3%)	186 (4.9%)
	住改・リフォームへの切り替え	151 (4.9%)	52 (3.4%)	28 (2.3%)	47 (3.9%)	27 (2.3%)	3 (2.8%)	169 (4.4%)
	転居（親族宅等）	65 (2.1%)	32 (2.1%)	24 (1.9%)	23 (1.9%)	23 (1.9%)	0 (0.0%)	71 (1.9%)
	購入品への切り替え	38 (1.2%)	25 (1.6%)	14 (1.1%)	12 (1.0%)	16 (1.3%)	1 (0.9%)	51 (1.3%)
	経済的理由	14 (0.5%)	6 (0.4%)	5 (0.4%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)	2 (1.9%)	21 (0.5%)
	他社への入れ替え	14 (0.5%)	7 (0.5%)	5 (0.4%)	4 (0.3%)	9 (0.8%)	2 (1.9%)	19 (0.5%)
	介助者介護への切り替え	11 (0.4%)	4 (0.3%)	3 (0.2%)	5 (0.4%)	6 (0.5%)	1 (0.9%)	14 (0.4%)
	自立判定による保険適用外	1 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
	その他	232 (7.5%)	115 (7.5%)	115 (9.3%)	114 (9.5%)	105 (8.8%)	12 (11.1%)	316 (8.3%)
	総計	3,094 (100.0%)	1,539 (100.0%)	1,242 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,192 (100.0%)	108 (100.0%)	3,824 (100.0%)

⑧ 表 31 にある回収した理由で、「入院（医療機関）」と「入所（老健・特養等）」と回答した者に対する貸与期間は表 32 の通りであり、半年未満での回収が「入院（医療機関）」では 39.9%、「入所（老健・特養等）」では 36.7%と高い割合になっており、4 割近くの利用者で貸与を開始して短期間で入院や入所してしまうケースが多くあることが判った。

【表 32：回収した理由（入院・入所）別貸与期間別回答数】

	入院		入所	
	回答数	割合	回答数	割合
半年未満	260	(39.9%)	163	(36.7%)
半年～1年未満	126	(19.4%)	78	(17.6%)
1～3年未満	166	(25.5%)	129	(29.1%)
3～5年未満	64	(9.8%)	48	(10.8%)
5年以上	35	(5.4%)	26	(5.9%)
総計	651	(100.0%)	444	(100.0%)

- ⑨ 他サービス利用状況別（利用者数ベース）では表 33 の通りであり、「福祉用具貸与のみ」と「他のサービス併用」を比較してみたところ、大きな傾向の違いは見られなかった。

【表 33：問 2 回答・他サービス利用状況回答数（複数回答）】

		返不 却要 でに きな るつ こと ら	安 く 借 り ら れ る こ と	し不 具 て も 合 ら え る 時 に 対 応	し困 や つ た す い 時 に と 相 談	を定 受期 け ら に れ メ ン コ ト ナ ン ス	特 に な い	総 計
回 答 数	福祉用具貸与のみ	779 (79.8%)	391 (40.1%)	276 (28.3%)	276 (28.3%)	274 (28.1%)	31 (3.2%)	976 (100.0%)
	他サービス併用	2,315 (81.3%)	1,148 (40.3%)	966 (33.9%)	918 (32.2%)	918 (32.2%)	77 (2.7%)	2,848 (100.0%)
	総計	3,094 (80.9%)	1,539 (40.2%)	1,242 (32.5%)	1,194 (31.2%)	1,192 (31.2%)	108 (2.8%)	3,824 (100.0%)

- (3) 問 3 「もし、この福祉用具を購入していたとしたら、どうしていただいでしょうか？」（単一回答）

- ① 「使わずに置いたままにしていたと思う」が 30.3%で最も高く、次いで「家庭ごみ・粗大ごみなどで処分することになったと思う」が 22.8%、「このまま使い続けたと思う」が 21.5%となっている。

【表 34：問 3 回答集計（利用者数ベース）】

	利用者数	構成比
使わずに置いたままにしていたと思う	1,159	(30.3%)
家庭ごみ・粗大ごみなどで処分することになったと思う	871	(22.8%)
このまま使い続けていたと思う	821	(21.5%)
誰かに譲っていたと思う	236	(6.2%)
中古品としてどこかに売却していたと思う	68	(1.8%)
わからない	640	(16.7%)
その他	29	(0.8%)
総計	3,824	(100.0%)

- ② 用具種目別（回収数量ベース）では表 35 の通りであった。

「使わずに置いたままにしていたと思う」では、歩行補助杖が 41.3%と最も高く、次いで歩行器が 34.0%、スロープが 32.2%、手すりが 23.1%と続いた。

「家庭ごみ・粗大ごみなどで処分することになったと思う」では、手すりが29.2%、次いでスロープが22.3%、歩行器が20.9%、歩行補助杖が18.8%と続いた。

「このまま使い続けていたと思う」では、手すりが22.1%で一番高く、次いで歩行補助杖が20.4%、歩行器が18.5%、スロープが18.0%と続いた。

【表35：問3回答・種目別回収数量】

		に使用せず に置いて いたと思 うま	に家庭 などで た処分 と思 う粗 大ご み	この まま 使 い 続 け て	誰か に譲 つ て い た と 思 う	中古 品と して 売 却 し て い た と 思 う	わ か ら な い	そ の 他	総 計
回収 数量	歩行補助杖	176 (41.3%)	80 (18.8%)	87 (20.4%)	27 (6.3%)	8 (1.9%)	44 (10.3%)	4 (0.9%)	426 (100.0%)
	歩行器	553 (34.0%)	340 (20.9%)	300 (18.5%)	131 (8.1%)	25 (1.5%)	267 (16.4%)	9 (0.6%)	1,625 (100.0%)
	手すり	902 (23.1%)	1,141 (29.2%)	865 (22.1%)	217 (5.6%)	83 (2.1%)	655 (16.8%)	44 (1.1%)	3,907 (100.0%)
	スロープ	234 (32.2%)	162 (22.3%)	131 (18.0%)	54 (7.4%)	10 (1.4%)	130 (17.9%)	5 (0.7%)	726 (100.0%)
	総計	1,865 (27.9%)	1,723 (25.8%)	1,383 (20.7%)	429 (6.4%)	126 (1.9%)	1,096 (16.4%)	62 (0.9%)	6,684 (100.0%)

③ 利用期間区別では表36の通りであり、割合のばらつきが確認できたものの、特段の傾向は見られなかった。

【表36：問3回答・貸与期間別利用者数】

		に使用せず に置いて いたと思 うま	に家庭 などで た処分 と思 う粗 大ご み	この まま 使 い 続 け て	誰か に譲 つ て い た と 思 う	中古 品と して 売 却 し て い た と 思 う	わ か ら な い	そ の 他	総 計
利用 者 数	半年未満	619 (33.8%)	373 (20.4%)	361 (19.7%)	110 (6.0%)	36 (2.0%)	321 (17.5%)	12 (0.7%)	1,832 (100.0%)
	半年～1年未満	186 (28.1%)	163 (24.7%)	145 (21.9%)	42 (6.4%)	12 (1.8%)	108 (16.3%)	5 (0.8%)	661 (100.0%)
	1～3年未満	235 (27.0%)	204 (23.5%)	203 (23.4%)	56 (6.4%)	15 (1.7%)	148 (17.0%)	8 (0.9%)	869 (100.0%)
	3～5年未満	71 (24.7%)	75 (26.0%)	78 (27.1%)	18 (6.3%)	1 (0.3%)	43 (14.9%)	2 (0.7%)	288 (100.0%)
	5年以上	48 (27.6%)	56 (32.2%)	34 (19.5%)	10 (5.7%)	4 (2.3%)	20 (11.5%)	2 (1.1%)	174 (100.0%)
	総計	1,159 (30.3%)	871 (22.8%)	821 (21.5%)	236 (6.2%)	68 (1.8%)	640 (16.7%)	29 (0.8%)	3,824 (100.0%)

④ 回収時の要介護度別（利用者数ベース）では表37の通りであり、軽度のほうが「このまま使い続けていたと思う」、「使わずに置いたままにしていたと思う」の割合が高く、「家庭ごみ・粗大ごみなどで処分することになったと思う」の割合が低い傾向が見られた。

【表 37：問3回答・回収時要介護度別利用者数】

	に使 わ ず に 置 い た ま ま	に な ど ご み の 粗 大 ご み	い こ の ま ま 使 い 続 け て	思 誰 う か に 譲 っ て い た と	売 ど 中 古 品 と し て	わ か ら な い	そ の 他	総 計	
利 用 者 数	要支援 1	84 (32.4%)	46 (17.8%)	64 (24.7%)	15 (5.8%)	4 (1.5%)	42 (16.2%)	4 (1.5%)	259 (100.0%)
	要支援 2	152 (32.6%)	76 (16.3%)	119 (25.5%)	31 (6.7%)	10 (2.1%)	77 (16.5%)	1 (0.2%)	466 (100.0%)
	要介護 1	218 (28.7%)	180 (23.7%)	186 (24.5%)	43 (5.7%)	9 (1.2%)	118 (15.5%)	6 (0.8%)	760 (100.0%)
	要介護 2	303 (31.7%)	201 (21.0%)	200 (20.9%)	65 (6.8%)	13 (1.4%)	165 (17.3%)	8 (0.8%)	955 (100.0%)
	要介護 3	200 (29.1%)	188 (27.4%)	127 (18.5%)	41 (6.0%)	12 (1.7%)	115 (16.7%)	4 (0.6%)	687 (100.0%)
	要介護 4	128 (27.8%)	124 (26.9%)	83 (18.0%)	27 (5.9%)	13 (2.8%)	81 (17.6%)	5 (1.1%)	461 (100.0%)
	要介護 5	74 (31.4%)	56 (23.7%)	42 (17.8%)	14 (5.9%)	7 (3.0%)	42 (17.8%)	1 (0.4%)	236 (100.0%)
	総計	1,159 (30.3%)	871 (22.8%)	821 (21.5%)	236 (6.2%)	68 (1.8%)	640 (16.7%)	29 (0.8%)	3,824 (100.0%)

- ⑤ 回収理由区分別（利用者数ベース）では表 38 の通りであり、同一種目の別機種へ交換するための回収の場合は他区分に比べて「このまま使い続けていたと思う」の割合が高い傾向にあった。

【表 38：問3回答・回収理由区分別利用者数】

	に使 わ ず に 置 い た ま ま	に な ど ご み の 粗 大 ご み	い こ の ま ま 使 い 続 け て	思 誰 う か に 譲 っ て い た と	売 ど 中 古 品 と し て	わ か ら な い	そ の 他	総 計	
利 用 者 数	1. 利用しなくなったことによる回収	925 (30.2%)	726 (23.7%)	619 (20.2%)	193 (6.3%)	54 (1.8%)	518 (16.9%)	25 (0.8%)	3,060 (100.0%)
	2. 別の移動用種目へ交換するための回収 (例：杖から歩行器)	94 (36.9%)	57 (22.4%)	48 (18.8%)	15 (5.9%)	2 (0.8%)	38 (14.9%)	1 (0.4%)	255 (100.0%)
	3. 同一種目の別機種へ交換するための回収 (例：歩行器Aから歩行器B)	140 (27.5%)	88 (17.3%)	154 (30.3%)	28 (5.5%)	12 (2.4%)	84 (16.5%)	3 (0.6%)	509 (100.0%)
	総計	1,159 (30.3%)	871 (22.8%)	821 (21.5%)	236 (6.2%)	68 (1.8%)	640 (16.7%)	29 (0.8%)	3,824 (100.0%)

- ⑥ 回収した理由別（利用者数ベース、複数回答）では表 39 の通りであり、「このまま使い続けていたと思う」と回答のあった中で「身体状況の悪化」が理由の割合は 16.9%存在していた。

また、「使わずに置いたままにしていたと思う」と回答のあった中で「身体状況の悪化」の割合は 25.5%、「身体状況の改善」は 23.4%となっており、高い傾向にあった。

【表 39 : 問 3 回答・回収した理由別回答数（複数回答）】

	に使 わ ず に 置 い た ま ま と 思 う	に な 家 庭 ご み な ど で 処 分 し た と 思 う	い こ た の ま ま 使 い 続 け て	思 誰 う か に 譲 っ て い た と	売 ど 中 古 品 と し て に し て お く る と 思 う	わ か ら な い	そ の 他	総 計
身体状況の悪化	314 (25.5%)	228 (24.4%)	147 (16.9%)	63 (25.5%)	16 (21.9%)	128 (18.9%)	4 (12.9%)	900 (22.1%)
入院（医療機関）	163 (13.2%)	166 (17.8%)	139 (15.9%)	40 (16.2%)	10 (13.7%)	124 (18.3%)	9 (29.0%)	651 (16.0%)
身体状況の改善	288 (23.4%)	97 (10.4%)	122 (14.0%)	38 (15.4%)	12 (16.4%)	89 (13.1%)	4 (12.9%)	650 (16.0%)
入所（老健・特養等）	103 (8.4%)	126 (13.5%)	91 (10.4%)	38 (15.4%)	10 (13.7%)	73 (10.8%)	3 (9.7%)	444 (10.9%)
死亡	75 (6.1%)	115 (12.3%)	73 (8.4%)	24 (9.7%)	8 (11.0%)	84 (12.4%)	2 (6.5%)	381 (9.4%)
利用者が使用したがない	98 (8.0%)	25 (2.7%)	24 (2.8%)	7 (2.8%)	6 (8.2%)	31 (4.6%)	2 (6.5%)	193 (4.7%)
入居（サ高住・有老）	44 (3.6%)	56 (6.0%)	44 (5.0%)	10 (4.0%)	0 (0.0%)	32 (4.7%)	0 (0.0%)	186 (4.6%)
住改・リフォームへの切り替え	28 (2.3%)	35 (3.7%)	69 (7.9%)	1 (0.4%)	5 (6.8%)	30 (4.4%)	1 (3.2%)	169 (4.2%)
転居（親族宅等）	9 (0.7%)	26 (2.8%)	24 (2.8%)	3 (1.2%)	1 (1.4%)	6 (0.9%)	2 (6.5%)	71 (1.7%)
購入品への切り替え	15 (1.2%)	4 (0.4%)	26 (3.0%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	3 (0.4%)	1 (3.2%)	51 (1.3%)
経済的理由	3 (0.2%)	3 (0.3%)	7 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (1.2%)	0 (0.0%)	21 (0.5%)
他社への入れ替え	2 (0.2%)	2 (0.2%)	8 (0.9%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	6 (0.9%)	0 (0.0%)	19 (0.5%)
介助者介護への切り替え	7 (0.6%)	2 (0.2%)	3 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)	14 (0.3%)
自立判定による保険適用外	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
その他	82 (6.7%)	50 (5.3%)	94 (10.8%)	20 (8.1%)	5 (6.8%)	62 (9.1%)	3 (9.7%)	316 (7.8%)
総計	1,231 (100.0%)	935 (100.0%)	872 (100.0%)	247 (100.0%)	73 (100.0%)	678 (100.0%)	31 (100.0%)	4,067 (100.0%)

⑦ 他サービス利用状況別（利用者数ベース）では表 40 の通りであり、「福祉用具貸与のみ」の場合、「他サービス併用」と比べて「使わずに置いたままにしていたと思う」の割合が高く、「家庭ごみ・粗大ごみなどで処分することになったと思う」の割合が低い傾向が見られた。これは、ヘルパー等の他職種による補助の有無が関係しているとも考えられる。

【表 40 : 問 3 回答・他サービス利用状況回答数】

	に使 わ ず に 置 い た ま ま と 思 う	に な 家 庭 ご み な ど で 処 分 し た と 思 う	い こ た の ま ま 使 い 続 け て	思 誰 う か に 譲 っ て い た と	売 ど 中 古 品 と し て に し て お く る と 思 う	わ か ら な い	そ の 他	総 計
福祉用具貸与のみ	303 (31.0%)	194 (19.9%)	221 (22.6%)	56 (5.7%)	22 (2.3%)	171 (17.5%)	9 (0.9%)	976 (100.0%)
他サービス併用	518 (18.2%)	965 (33.9%)	650 (22.8%)	180 (6.3%)	46 (1.6%)	469 (16.5%)	20 (0.7%)	2,848 (100.0%)
総計	821 (21.5%)	1,159 (30.3%)	871 (22.8%)	236 (6.2%)	68 (1.8%)	640 (16.7%)	29 (0.8%)	3,824 (100.0%)

- ⑧ 自己負担割合別（利用者数ベース）では表 41 の通りであり、「このまま使い続けていたと思う」は自己負担割合が高いほど低くなる傾向にあり、「家庭ごみ・粗大ごみなどで処分することになったと思う」は自己負担割合が高いほど高くなる傾向にあった。

【表 41：問 3 回答・自己負担割合別利用者数】

		に使用せずいたというまま	家庭ごみ・粗大ごみ	このまま使い続ける	誰かに譲っていた	中古品として売却したと思う	わからない	その他	総計
利用者数	1割	1,012 (30.9%)	726 (22.2%)	705 (21.5%)	190 (5.8%)	62 (1.9%)	557 (17.0%)	23 (0.7%)	3,275 (100.0%)
	2割	63 (28.6%)	49 (22.3%)	52 (23.6%)	20 (9.1%)	3 (1.4%)	31 (14.1%)	2 (0.9%)	220 (100.0%)
	3割	53 (25.6%)	70 (33.8%)	29 (14.0%)	17 (8.2%)	3 (1.4%)	31 (15.0%)	4 (1.9%)	207 (100.0%)
	なし	31 (25.4%)	26 (21.3%)	35 (28.7%)	9 (7.4%)	0 (0.0%)	21 (17.2%)	0 (0.0%)	122 (100.0%)
	総計	1,159 (30.3%)	871 (22.8%)	821 (21.5%)	236 (6.2%)	68 (1.8%)	640 (16.7%)	29 (0.8%)	3,824 (100.0%)

4. 本調査のまとめ

(1) 「利用者の基本情報に関する集計結果」から

- 福祉用具回収時の年齢は「85～90歳未満」が27.0%で一番多く、これは介護給付費実態統計月報（令和5年3月審査）の全サービス受給者の年齢区分でも同様であった。
一方で、用具の利用期間が半年未満の割合は38.8～48.6%、1年未満では56.6～64.9%と短期で終わるものが多く存在した。例えば80歳代後半で福祉用具を購入して、結果として短い期間で用具が不要になる場合には処分に困ることが想定される上、資源の有効活用に逆行するものと考えられる。（表1、14）
- 回収した用具の種目と介護度を見ると、3種目（歩行補助杖・歩行器・手すり）については要介護2が一番多くなっており、これは軽度から利用を開始した用具が身体状況の変化などによって要介護2あたりで不要になり返却するケースが多いと考えられる。（表3）
- 回収した用具の種目と他サービス利用状況を見ると、他サービス利用なし（福祉用具貸与のみ）の割合が歩行補助杖で29.6%、歩行器で25.6%、手すりで21.8%、スロープで14.5%となっており、これらの利用者は他のサービスを利用するような状況ではないと考えられ、福祉用具があったからこそ他サービスに頼らず居宅で生活できたものと推測される。（表8）
- 回収理由区分を見ると、「利用しなくなったことによる回収」が80.0%となっており、貸与であるからこそ利用者は不要となった用具の処分に困らない上、資源の有効活用につながっている。（表9）
- 特に歩行器は、同一種目の別機種へ交換するための回収割合が高く（22.8%）、これは変化する状態像に応じて転倒などを防止するために適切な交換が実施されているものと推測される。（表10）
- 回収した理由には「身体状況の悪化（23.5%）」とは別に「身体状況の改善（17.0%）」が存在しており、例えば退院後の身体状況回復に応じた用具の変更などが考えられる。
また、回収した理由は多岐に亘っており、利用者をとりにくく様々な要因に対して福祉用具貸与が適切な変化への対応に役立っている。（表11、12の2）
- 福祉用具利用開始時は要介護度が軽かったが、身体状況の悪化等の理由から杖、歩行器等を使用しなくなったため返却することになったと想定される。（表12の2）

(2) 利用者に対する問1「この福祉用具を返却することになりましたが、利用を始めるときを思い返して、この福祉用具の利用期間は想定通りでしたか？」の回答から

- 「想定より短かった」が41.3%で最も多く、次いで「わからない」が22.9%、「想定に近かった」が22.1%、「想定より長かった」が13.7%と続いた。（表19）
また、貸与種目別に見ても、いずれの種目も「想定より短かった」が最も多く、次いで「わからない」となっており、用具種目に関係なく貸与開始時点における利用期間の見通しは困難であることが分かった。（表20）
これらのことから、利用者や家族にとって貸与開始時点における利用期間の見通しは非常に困難であることが推測される。
- 「想定したよりも短かった」と回答し、回収した理由が「身体状況の悪化」の割合が22.6%、「入院（医療機関）」の割合が17.3%であったことから、利用者の身体状況が当初の見込み通りとならなかった事例が一定数存在することが判った。一方で「身体状況の改善」が

17.6%あったことは福祉用具利用の効果であると考えられると共に、貸与であるからこそ改善した身体状況に見合う新たな用具へ変更することも可能となっている。(表 24)

(3) 利用者に対する問2「返却するこの福祉用具について、レンタルで良かったと思う点がありますか？」の回答から

- 「不要になったら返却できること」の割合が80.9%、「安く借りられること」が40.2%、「不具合発生時に対応してもらえること」が32.5%などと、利用者や家族に貸与の利点が理解されているものと考えられる。(表 26)
- 問1で「想定に近かった」と回答し、貸与期間が1年未満だった利用者と1年以上だった利用者を比べたところ、顕著な違いが見られなかったことから、貸与期間が短い場合であっても貸与の利点が理解されているものと考えられる。(表 28 の 2)
- 回収した理由で「入院(医療機関)」、「入所(老健・特養等)」と回答したものを貸与期間別に見ると、半年未満での回収が「入院(医療機関)」の39.9%、「入所(老健・特養等)」の36.7%となっており、入院・入所による返却が多い実態が確認された。(表 32)

(4) 利用者に対する問3「もし、この福祉用具を購入していたとしたら、どうしていたでしょうか？」の回答から

- 「使わずに置いたままにしていたと思う」が30.3%で最も多く、現行の仕組み(貸与)であるからこそ資源が埋没することなく回収され有効活用されていることが判った。(表 34)
- 用具種目別で見ると、「家庭ごみ・粗大ごみなどで処分することになったと思う」と回答した割合は手すり29.2%で最も高く、購入していて不要になった場合は処分に困るものと推測される。(表 35)
- 「このまま使い続けていたと思う」と回答のあった中で「身体状況の悪化」が理由の割合が16.9%となっていることから、身体状況に適合していない用具をこのまま使い続けて転倒等の事故につながる危険性が高くなることが推測される。(表 39)
- 「このまま使い続けていたと思う」と回答のあった中で「入院(医療機関)」の割合が15.9%、「入所(老健・特養等)」の割合が10.4%となっていることから、これらは購入した用具を医療機関や入所先へ持ち込むのではないかと推測される。(表 39)

利用者(家族)は自身で今後の身体状況を予測することが難しいという調査結果となった。これは、福祉用具を導入する際に利用期間を推定することが難しいということが言える。

貸与と購入の選択肢があった場合には、

- ① 貸与の特性が広く理解されていることから貸与を選択する者が多く購入を選ぶ者が少ない
- ② 利用期間の想定ができない中で、長期間利用すると想定して購入した結果、短期間の使用のあと家庭内での処分に苦慮することとなる

こと等が想定でき、「購入」を選択肢して設定することの意義が見出せない。

また、利用者(家族)等は制度として定着している貸与の利点を理解していることや、身体状況の改善等の変化に応じて適切な交換が実施されている現状が確認でき、貸与の仕組みは利用者の安全や資源の有効活用に資することが把握できた。

以上

「福祉用具利用期間の当初見込みと実態の比較に関する調査」 実施要領

1. 事業名

福祉用具利用期間の当初見込みと実態の比較に関する調査

2. 調査目的

福祉用具利用者（ご家族）は、ご自身の現在の状態が今以上に悪化することを想像しにくく、福祉用具を導入する際に購入するかレンタルするかを選択肢があった場合には、その福祉用具を長期に亘って使用することを想定して、購入を選択する可能性が高くなると考えられる。

本事業では、利用者（又はご家族）において福祉用具が不要となり返却する時点で、返却の理由とその福祉用具の利用期間が当初の見込みと比べて相違がなかったか調査することを目的とする。

3. 調査対象

歩行補助つえ、歩行器、手すり、スロープ（介護保険対象）を回収する事例全件（但し、故障や消耗により同じ製品へ交換する事例を除く）

4. 調査、回答手順

① 福祉用具専門相談員が、別紙1「登録シート」を用いて、予め以下の情報を確認します。

- ・ 1. 調査いただく相談員の情報
- ・ 2. 利用者の基本情報（回収時時点）
- ・ 3. 利用者の基本情報（福祉用具利用開始当時）

② 福祉用具専門相談員が、福祉用具回収時に利用者又はご家族に対して登録シート「4. 利用者に対する質問」（全3問）を尋ねます。

③ 登録シートの全ての情報をweb入力します。

web 回答フォーム URL：<https://forms.gle/2v4JDeeEsR4BC7mX7>

※登録した内容は、登録いただいた email アドレスに送信されます

※「登録シート」の用紙は、提出いただく必要はございません



5. 調査期間

2023年4月10日（月）～23日（日） ※回収日基準

入力完了期限は4月25日（火）です。

6. その他

- ・ 想定される質問に対する回答は、別紙2をご確認ください。
- ・ その他、ご不明な点は以下事務局までご連絡ください。
一般社団法人日本福祉用具供給協会 事務局（担当：伊藤、淡路）
電話：03-6721-5222 email：jimukyoku@fukushiyogu.or.jp

以上

「福祉用具利用期間の当初見込みと実態の比較に関する調査」登録シート

1. 調査いただく相談員の情報（web登録ではemailアドレスを最初に入力します）

○貸与事業所番号：

○相談員氏名：

2. 利用者の基本情報（回収時時点）

○利用者の社内管理番号（顧客コード等）：

○年齢：

○性別：

○要介護度： 要支援1・要支援2・要介護1・要介護2・要介護3・要介護4・要介護5

○都道府県：

○自己負担割合： 1割・2割・3割・なし・その他（ ）

○回収した日付： 月 日

○他サービス利用状況（複数回答可、福祉用具貸与のみの場合は「なし」を選択）

- 訪問介護 訪問入浴介護 訪問看護 訪問リハビリ
 通所介護 通所リハビリ 短期入所生活介護、療養介護 なし

○回収理由区分

- ・ 利用しなくなったことによる回収
- ・ 別の貸与種目へ交換するための回収（例：杖→歩行器）
- ・ 同一種目の別製品へ交換するための回収（例：歩行器A→歩行器B）

○回収した理由（複数回答可）

- A_入院（医療機関） F_転居（親族宅等） K_死亡
 B_入居（サ高住・有老） G_介助者介護への切り替え L_購入品への切り替え
 C_入所（老健・特養等） H_住改・リフォームへの切り替え M_他社への入れ替え
 D_身体状況の悪化 I_自立判定による保険適用外 N_経済的理由
 E_身体状況の改善 J_利用者が使用しつづけない O_その他（自由記述）

○回収した福祉用具

貸与種目	TAIS(届出)コード	数	利用開始日
杖・歩・手・ス	-		. .
杖・歩・手・ス	-		. .
杖・歩・手・ス	-		. .
杖・歩・手・ス	-		. .

貸与種目	TAIS(届出)コード	数	利用開始日
杖・歩・手・ス	-		. .
杖・歩・手・ス	-		. .
杖・歩・手・ス	-		. .
杖・歩・手・ス	-		. .

3. 利用者の基本情報【福祉用具利用開始当時（返却する用具が複数存在する場合は、利用期間が最も長い用具の開始日を指します。）】

○要介護度： 要支援1・要支援2・要介護1・要介護2・要介護3・要介護4・要介護5

4. 利用者に対する質問（返却する用具が複数存在し利用期間が異なる場合は、利用期間が最も短い用具を対象として質問します。）

問1：この福祉用具を返却することになりましたが、利用を始めるときを思い返して、この福祉用具の利用期間は想定通りでしたか？（単一回答）

- ・ 想定に近かった
- ・ 想定より短かった
- ・ 想定より長かった
- ・ わからない

問2：返却するこの福祉用具について、レンタルで良かったと思う点がありますか？（複数回答可）

- ・ 不要になったら返却できること
- ・ 安く借りられること
- ・ 定期的にメンテナンスを受けられること
- ・ 不具合発生時に対応してもらえること
- ・ 困った時に相談しやすいこと
- ・ 特になし

問3：もし、この福祉用具を購入していたとしたら、どうしていただいでしょうか？（単一回答）

- ・ このまま使い続けたと思う
- ・ 使わず置いたままにしていたと思う
- ・ 家庭ごみ・粗大ごみなどで処分することになったと思う
- ・ 誰かに譲っていたと思う
- ・ 中古品としてどこかに売却していたと思う
- ・ わからない
- ・ その他（ ）

○本シートはweb登録のための下書き用です。上記の内容は以下リンクより入力をお願いします

<https://- 23 -e/2v4JDeeEsR4BC7mX7>


「福祉用具利用期間の当初見込みと実態の比較に関する調査」回答のためのQ&A

Q1： 今回の調査で対象となる福祉用具の範囲は何ですか？

A1： 介護保険の歩行補助つえ、歩行器、手すり、スロープの4種目となります。介護保険のみを対象としますので、自費レンタルやレンタル卸先からの回収は含まれません。

Q2： この調査における「回収」とは、どのように定義していますか？

A2： ①利用しなくなったことによる回収、②別の貸与種目へ交換するための回収（例：杖→歩行器）、③同一種目の別製品へ交換するための回収（例：歩行器A→歩行器B）の3つと定義します。よって、故障や消耗により同じ製品へ交換する際の回収は対象となりません。

Q3： デモ商品を回収した場合はこの調査の対象ですか？

A3： 介護保険の対象となった貸与品の回収を対象としているため、デモ商品の回収は対象外です。

Q4： 入院が長期化したため回収することになった請求保留中の貸与品回収はこの調査の対象ですか？

A4： はい。入院を理由とする回収として対象となります。但し、介護保険請求実績があったものに限りです。

Q5： 入院して請求を休止した場合の取扱いはどうなりますか？

A5： 福祉用具を回収していないのであれば今回調査の対象になりません。

Q6： 回収時と利用開始当時の介護度を回答することになっていますが、申請中の場合はどうしたら良いでしょうか。

A6： 開始当時の申請中は、その後認定された介護度でご回答ください。自立判定などで認定されなかった場合は、本調査の対象外となります。また、回収時の申請中は、直前の介護度をご回答ください。

Q7： 福祉用具利用開始当時の介護度を回答することになっていますが、利用開始日の異なる複数の対象福祉用具を回収する場合はどうしたら良いですか？

A7： 一番古い利用開始日に紐づく介護度をご回答ください。

Q8： 他サービス利用状況を回答することになっていますが、どのように確認すれば良いですか？

A8： 原則として、居宅サービス計画書（第2表）のご確認をお願いします。第6表（サービス提供票）や第7表（サービス提供票別表）では、居宅介護支援事業所のシステムによっては確認できない場合がありますのでご注意ください。

Q9： TAISコード単位で登録するようですが、例えば歩行器と杖を回収した場合、どのように登録したら良いですか？

A9： 回答フォームでは、1人の利用者につき8個の商品まで登録できるようになっていますので、それぞれのTAISコードと数量を入力ください。

Q10： 福祉用具の種目とTAISコードを入力するようになっていますが、TAISコードだけで種目は分かるのではないですか？

A10： 正しいTAISコードが入力されているかの確認の一つとして種目を入力いただきます。

Q11： 1人の利用者につき8個の商品まで登録できるとの事ですが、9個以上の場合はどうしたらよいのでしょうか？

A11： ご面倒をおかけしますが、8個の商品を登録後、改めて9個目より基本情報から入力をお願いいたします。

Q12： 例えば、突っ張り型手すりの付属品なども個々に入力が必要ですか？

（例：ベストポジションパー基本セットとU型アームの回収）

A12： はい。ご面倒をおかけしますが、貸与価格が設定されている単位で入力いただけます。

Q13： 同じ商品を2個回収であっても、それぞれの貸与開始日が違う場合は別の商品を回収した扱いとすべきでしょうか？

A13： ご面倒ですが、同じ商品でも、貸与期間が異なりますので、それぞれ入力をお願いいたします。

Q14： 入力した回答を途中で保存することは可能でしょうか？

A14： 申し訳ありませんが、途中で保存する機能がございませんので、一度に全ての情報を入力いただく必要がございます。特に出先でタブレット等で入力いただく際は、「登録シート」をご活用いただき、TAISコードや他サービス利用状況など必要情報を事前にご確認ください。

Q15： web入力で誤った登録をしたと気づいた場合、どうしたら良いですか？

A15： 日本福祉用具供給協会事務局（email：jimukyoku@fukushiyogu.or.jp）まで、修正したい情報などをご連絡ください。その際は、「貸与事業所番号」と「利用者の社内管理番号（顧客コード等）」をお知らせください。

Q16： テスト入力したいのですが、どうすれば良いのでしょうか？

A16： 4月10日以降の登録データを集計に抽出しますので、それまでのテスト入力（送信）は一切問題ございません。また、4月10日以降であっても、最後の「送信」を押さずにブラウザを閉じていただければ登録されません。

Q17： 登録シートの「3」に、福祉用具利用開始当時の介護度とあるのですが、調査対象の4種目以外の福祉用具が一番古い場合などはどうしたら良いのでしょうか？

A17： 「今回回収した調査対象の福祉用具の中で一番古い利用開始日」と定義します。よって、登録シートに記入する「回収した福祉用具」欄の「利用開始日」の一番古い日付に紐づく介護度をご回答ください。

